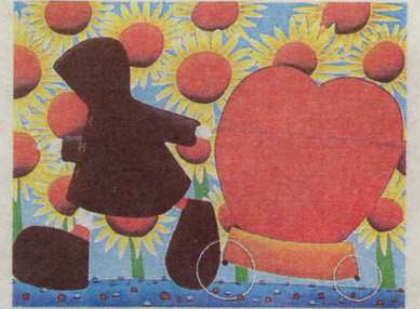


学習障害の画家 マッケンジー・ソープ氏に聞く

想像できるなら、実現できる



◎「人は皆どんな困難の中でも生き抜く力を持っている」と語るマッケンジー・ソープ氏
◎ソープ氏の作品「愛をはこぶ人」



とらえ方で「暗」を「明」に

発達障害の一つで、読み書きが困難な学習障害「難読症」(ディスレキシア)がある英国人画家マッケンジー・ソープ氏(五七)が七日、福岡市の福岡県立美術館で開催していた作品展(八日閉幕)に合わせて同市を訪れた。ソープ氏は障害のため困難に遭いながらも美術の才能を開花させ、現在では世界中で評価を受けている。ソープ氏に話を聞いた。(江藤俊哉)

子どものころ、私は「顔のない人間」でした。簡単な単語さえ読み書きできず、友だちも先生さえも「怠け者」「頭が悪い」と責めました。私は自分を「無駄な存在」だと思

っていたのです。私は家でも外でも、いつも絵ばかり描いていました。貧しい労働者だった父は私がバステルで立

と私をたたきました。もし私がサッカーに夢中だったら、ほめてくれたでしょう。絵を描いても誰もほめてくれません。逆に「変なやつだ」とばかにされました。

十五歳で働きに出ました。何の資格もない私に良い働き口はありません。仕事を転々とししました。そのころは「私は○○だ」と誇れるものは何一つありませんでした。本当に最悪の時期でした。転機は二十歳のころ。友人が美術学校入学を勧めてくれました。願書はひどいものでした。スペルは間違だらけ、論文はまったく書けません。でも絵は何千枚も描きだめていました。それで無

事入学できたのです。その後も自信は持てませんでしたが、現代美術と出会い、虜(こぼ)になりました。そのころ、妻に出会いました。妻はこう言ってくれました。「想像しなさい。想像できることは、実現できる可能性があるということ。不可能ならば想像もできないはずですよ」

例えば、ヒナギクの群落の中をタッフルコートを着た顔のない子どもが大きなハートを運んでいる絵。この子はかつての私です。誇りを持って、ありふれたヒナギクよりも小さな存在です。その子は大きな「ハート」愛を荷車に乗せて運ぼうとしています。よく見ると荷車の車輪はスポークがありません。運ぶのは非常に困難です。でも子どもは愛を運ぼうとしています。それはとても強い意志なのです。

この世界は最も美しく、最も醜いところですよ。「明」と「暗」は正反対のように見えますが、一つのものでした。「明」の中に「暗」があり、「暗」の中に「明」がある。とらえ方で「暗」も「明」に変わるのです。大人のみなさん。子どもを愛してください。守ってください。導いてください。「ダメだ」「できない」と頭ごなしに責めないでください。発達障害などさまざまな困難に苦しむ人には、私の妻の言葉を贈りたい。それは今も私の支えになっています。「想像しなさい。想像できることは実現できる可能性があるのです」(談)

マッケンジー・ソープ氏作品展 熊本県立美術館(熊本市千葉城町)22日まで(16日休館)。一般800円、中学生以上500円、小学生300円。15日午後2時、ソープ氏のサイン会。実行委=096(284)5877▽長崎新聞文化ホール(長崎市茂里町)14-18日。無料。14日午後2時、ソープ氏のサイン会。実行委=095(849)599。